

## ハウスを支えるボランティア

ハウスの運営はボランティアによって行われます。清掃や食事の支度は基本的にご家族にさせていただきますが、利用家族がゆとりとくつろげるような家づくりのサポートをしているのはボランティアです。  
またハウスの付帯施設は、ハウスの趣旨に賛同した企業から提供されたものがほとんどです。ハウスは、多くの方の協力なしでは、成り立たないのです。



### ボランティアの募集

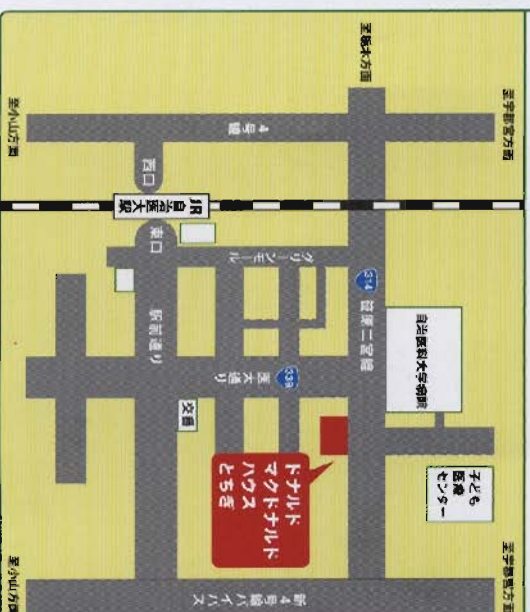
ボランティアに参加してみませんか。興味のある方は、下記までお問い合わせください。また、ハウスへの寄付などについては、ハウスマネージャーまでご連絡ください。

連絡先:とちぎハウス  
Tel.0285-58-7551  
Fax.0285-44-4154



## Donald・マクDonald・ハウス とちぎ

- 場所: 〒329-0434  
栃木県下野市祇園2-36-3  
自治医科大学2号館 3階  
Tel.0285-58-7551  
Fax.0285-44-4154  
自治医大駅から徒歩7分
- 施設: ペットルーム7室、キッチン、ダイニング、リビングルーム、多目的室(図書室)
- 利用料金: 1泊1000円/人
- お申し込み: Tel.0285-58-7551



# Donald マクDonaldハウス とちぎ



Donald  
McDonald  
House  
Tochigi



## ハウスの歴史

フィラデルフィアでアメリカンフットボール選手として活躍していたフレッド・ヒルの愛娘(3歳)が白血病にかかり、入院することになりました。娘の入院中、彼がそこで目にしたものは、狭い病室で子どもの傍らに折り重なるようにして寝ている母親、やむなく病院内の自動販売機で食事を済ませている家族の姿でした。彼もまた入院先の病院が自宅から遠く離れていたため、精神的にもそして経済的にも苦痛を感じていました。そこで彼は病院近くに家族が少しでも安らげる宿泊施設ができるものかと考え、近くにあるスクボナルドの店舗オーナー、病院の医師、そしてフットボールチームの協力を得て募金活動が進められたのです。そして1974年、フィラデルフィア新聞社主が提供してくれた家を改造し、世界初の「ドナルド・スクボナルド・ハウス」が誕生したのです。彼らの切実な願いを数多くの人たちがわかち合い、3年後にはシカゴに第2号ハウスが誕生しました。やがてこの活動が世界的な広がりを見せ、今では世界に200以上の「ドナルド・スクボナルド・ハウス」が建てられ、年々増え続けています。



フィラデルフィアの1号ハウス

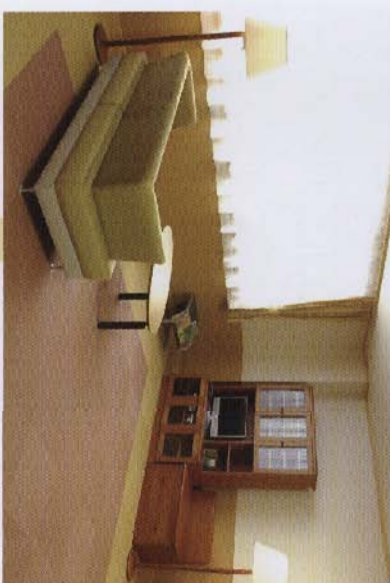
## ハウスとは・・・

自宅から遠方の病院に入院している子どもの、付き添い家族が利用できる宿泊施設です。ハウスのコンセプトは“Home away from home”―我が家のようにくつろげる第二の家。世界各国にあるすべてのハウスが、このコンセプトをベースに運営されています。

日本第5号のどちぎハウスは、自治医科大学の敷地内にあるとちぎ子ども医療センターの南側に建てられ7家族が滞在することができます。キッチン、リビング、ダイニング、プレイエリアが備わった大きな家です。



エントランス



リビングルーム



多目的室

## とちぎハウスのロコ

橋本生まれのいちご「とちおとめ」とハウスがモチーフ。大事に育てられたいちごのように、短命いの子どもに育って欲しいという願いがこめられています。



プレイエリア



キッチン&ダイニングルーム



ベッドルーム